

■授業の目的

西洋・日本の古代から現代に至るまでの教育の歴史と思想を学ぶことを通して、今日の日本の教育の全体像を把握し、更に未来社会を展望する教育の在り方を探ることを目的とする。

■授業の到達目標

教育は人類がこれまで連綿として築いてきた文化の伝達手段である。各時代の主要な教育制度・思想などを時代背景とともに考察し、教育に対する考え方、基本的な知識等を身に付けることを目標とする。

■授業計画

- 1 はじめに、「古代の教育」（西洋）
 - 1 オリエンテーションと自己紹介、2 古代ギリシャの教育、3 アテネ・古代ローマの教育思想
- 2 「中世の教育」、「ルネッサンス・宗教改革と教育」
 - 1 キリスト教会と教育、2 封建体制下の教育、3 ルネッサンスと教育、4 宗教改革と教育
- 3 「17世紀の教育」
 - 1 実学主義の教育、2 近代教育の祖、コメニウス、3 絶対主義体制と教育
- 4 「18世紀の教育思想」
 - 1 ロック、2 ルソー、3 ベスタロッチ、4 カント
- 5 「市民革命・産業革命と教育」
 - 1 イギリス市民革命と教育、2 アメリカ独立革命と教育、3 フランス大革命と教育、4 イギリス産業革命と教育、5 諸国の産業革命と教育
- 6 「近代公教育制度の発達」
 - 1 ドイツの公教育、2 フランスの公教育、3 イギリスの公教育、4 アメリカの公教育
- 7 「19～20世紀の教育思想」
 - 1 フレーベル、2 ヘルバルト、3 スペンサー、4 ドイツ・フランスの教育思想、5 ロシアの教育思想
- 8 「新教育運動の展開」
 - 1 新教育運動と田園教育舎、パーカー、2 経験主義とデューイ、3 アメリカ新教育の展開
- 9 「教育の動向」
 - 1 教育の民主化、2 教育の国際化とユネスコ憲章、3 技術革新への対応、
- 10 「古代・中世の教育」（日本）、「近世の教育Ⅰ」
 - 1 大陸文化の摂取、2 平安の仏教と貴族、3 中世の武家教育、4 中世の寺院と庶民、5 武士の教育、6 庶民の教育
- 11 「近世の教育Ⅱ」、「近代教育の創始」
 - 1 諸学派と私塾、2 洋学の発達、3 「学制」の成立、4 教育令とその改正、5 教育方法の模索
- 12 「国民教育の確立」「教育の拡充と教育運動」
 - 1 国民教育の基礎、2 義務教育の確立、3 諸学校の整備・拡充、4 自由教育運動、5 社会教育の振興
- 13 「戦時体制下の教育」、「戦後の教育改革Ⅰ」
 - 1 教学の刷新、2 皇国民の錬成、3 戦時体制の強化、4 新しい教育方針、5 単線型学校体系
- 14 「戦後の教育改革Ⅱ」、「教育の進展」
 - 1 教育制度の改革、2 生活経験主義、3 教育政策の修正、4 教育の整備・充実、5 教育改革の推進
- 15 「講義のまとめと今後の展望」
 - 1 これまでの内容の整理と確認、2 現代社会における教育の課題、3 講義のまとめ

■授業の方法

授業は、講義形式と課題解決に向けての討議形式で行う。

■予習・復習

講義のレジュメに添付した課題レポートについては、講義内容を深め、発展的な考察を促す意味で設定しているため、次回の講義の機会に報告書として提出すること。提出された課題レポートの内容は、適宜講義で紹介し、全体で討論し、相互の理解をふかめるようにする。

■成績評価の方法

定期試験は論文形式と択一式の問題を併用した形式で出題する（60%）。課題レポート（30%）、授業中の態度・発言等を平常点として加味する（10%）。課題レポートの配点は高いので、忘れず、漏らさず提出するようにしたい。

■教科書・参考書

- (1)教科書：教師養成研究会・森秀夫著「教育史 西洋・日本」学芸図書 2013年。
- (2)参考書：柴田義松・山崎準二編著「教育史」学文社 2005年。

■関連する科目

教育原理・教育社会学は教育史に登場する人びとの教育理論を深く理解するために重要な科目となる。